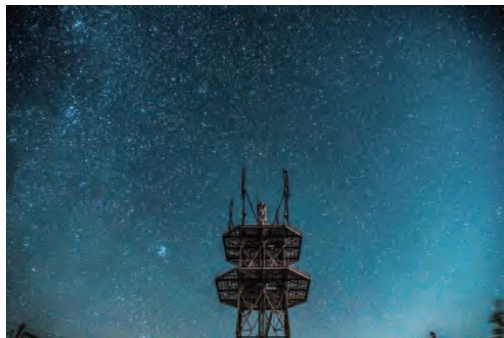


カシオペアの丘から望む星空
(地域おこし協力隊 飯塚諒撮影)



また、冬の星座の「おうし座」もサケ漁の星座です。この星座は牛の上半身の形ですが、鼻から目の部分にV字形に見える星々「ヒアデス星団」があります(図2)。この部分をアイヌの人々は「ウライ(やな漁)ノチュウ(星座)」と呼んでいました。「ウライ(やな漁)」とは杭や石でV字形の魚道を作り、先端に捕獲具を置きサケを捕まえる漁のことです。赤く輝く大きな星「アルデバラン」は、サケの横取りを見張るカムイ(神)とされています。

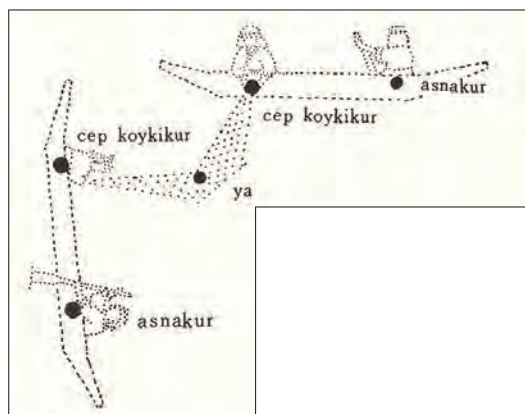


図1 カシオペア座

ヤーシャ網漁

こうした川でのサケ漁は、明治初期には開拓使により大河川の河口部での網漁を除いて禁止され、100年前ごろには完全になくなったようです。「発寒川流域を開拓に入ったころは、川にウライ漁の杭がまだ残っていて、開拓者は抜いて鍬の柄にした」という話を昭和60年ごろに聞いたことがあります。

(石橋孝夫)



図2 ヒアデス星団

ウライ漁

※図1・2 出典:末岡外美夫著「アイヌの星」旭川叢書第12巻 1979年



石狩市学芸協力員
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

アイヌ民族のサケ漁と星座